

課題の残る問題はこれ!

実生活において必要な知識・技能をさまざまな場面に活用する力を身に付けることが求められています。全国学力・学習状況調査の問題から課題が見えた事例を紹介します。

中学校数学B 「活用」に関する問題

(2) 同じ種類の釘をたくさん用意しました。

容器に同じ種類の釘がたくさん入っています。このとき、釘の本数を求めようと思います。
この容器から釘を取り出して、釘全体の重さをはかったところ、約400gでした。



釘全体の重さが分かっているとき、釘の本数を求めるためには、何を調べて、どのような計算をすればよいですか。下のアからウの中から調べるものを1つ選びなさい。また、それを使って釘の本数を求める方法を説明しなさい。

- ア 釘1本の長さ
- イ 釘1本の重さ
- ウ 釘1本の太さ

正答例 ● イ 釘1本の重さを調べて、釘全体の重さ400gを釘1本の重さで割れば、釘の本数を求めることができます。
全国正答率 ● 51.9%

問題解決の方法を数学的に説明することが求められている問題です。

イを選択していますが、説明の無回答率は13%でした。釘の本数とその重さとの間に比例の関係を見出し、その関係を用いて、釘の本数の求め方を説明することに課題がありました。

中学校国語A 「知識」に関する問題

1 (A)の方が(B)よりも住所の区切りがよいところで改行している点

2 (A)の方が(B)よりも住所の字と字の間隔を広くして書いている点

3 (A)の方が(B)よりも強調したい部分の文字を太字で書いている点

4 (A)の方が(B)よりも文字を行の下の線にそろえて書いている点

5 中学生の野村さんが家に届いた荷物の伝票を見てみると、見やすい伝票(A)とそうでない伝票(B)があることに気がつきました。(A)の伝票は、(B)の伝票と比べてこのような点が見やすく書かれています。見やすく書かれている点の説明として適切なものを、あとの1から4の中から2つ選びなさい。

伝票A

〒963-2937
 住所 福島県郡山市 小林通り町3-5-7-920
 野村 誠 様
 電話番号 024(39)2587

伝票B

〒963-2937
 住所 福島県郡山市小林通り町3-5-7-920
 野村 誠 様
 電話番号 024(39)2587

正答 ● 1と4 全国正答率 ● 45.8%

実用的な文章を読みやすく、情報に誤りがないよう書くことが求められている問題です。文字の配置を下の線に揃えるとよいということは意識できていますが、改行すると分かりやすくなるという意識を持つことに課題がありました。

学力調査から見る 庄原市の姿

全国学力・学習状況調査 / 「基礎・基本」 定着状況調査
教育指導課 ☎ 0824-73-1184

本年度実施した学力調査の結果、本市は全国平均正答率または県平均通過率を上回るか、おおむね平均に近い数値となりました。

小・中学校の「国語」や「英語」では、本市が積極的に取り組んでいる「ことばの教育」や「キャリア教育」など、コミュニケーション能力を高める指導の成果が表れつつあります。一方で、小学校の「算数」などでは基礎的な知識の習得に課題が残りました。引き続き、児童・生徒が分かる授業を目指して、指導法の工夫改善を進める必要があります。

全国学力・学習状況調査の結果

全国学力・学習状況調査は、文部科学省により4月22日に実施され、小学校6年生と中学校3年生が参加しました。

中学校3年生

教科	全国(公立)	広島県(公立)	庄原市
国語A	73.6	74.1	74.4
国語B	60.8	60.9	63.5
数学A	63.1	64.1	63.2
数学B	49.2	48.7	50.6

*数値は平均正答率 (%)

小学校6年生

教科	全国(公立)	広島県(公立)	庄原市
国語A	65.4	67.8	65.6
国語B	50.5	53.3	50.0
算数A	72.2	74.3	71.4
算数B	51.6	53.6	48.6

*数値は平均正答率 (%)

「基礎・基本」 定着状況調査の結果

「基礎・基本」定着状況調査は、県教育委員会により6月10日に実施され、小学校5年生と中学校2年生が参加しました。

学年	小学校5年生		中学校2年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
庄原市	69.5	74.8	77.7	64.2	73.9
広島県	67.4	76.1	76.2	65.7	71.1

*数値は平均通過率 (%)

確かな学力の定着を目指して



学力向上検討委員会 会長 豊原芳史

本市は、学力調査の結果が出されることに調査結果の分析に基づき、子どもたちの学ぶ意欲をさらに高めるための改善を進めています。

改善には二つのポイントがあります。一つは学校での授業改善、もう一つは家庭学習の充実です。

市内の小・中学校の先生が組織する学力向上検討委員会、全体研修あるいは国語や数学などの教科ごとに、必要に応じた研修会を行い、授業改善に向けて、教員の指導力を高める取り組みを進めています。

9月30日には、市内小・中学校の教務主任や研究主任の先生が集まり、課題別に分かれて具体的な指導方法について検討し、交流を行いました。

■家庭学習の充実
家庭での取り組みも、学力の定着に大きく影響します。宿題を確実にすることも大切ですが、今注目されていることに、起きる時刻、家庭学習を開始する時刻、寝る時刻の三つの時刻を、毎日同じにする取り組みがあります。子どもにとって日々の生活のリズムが定着する三つの時刻を固定することで、生活リズムができ、学力の定着につながります。

この三つの時刻を何時にするのか、親子で話し合ってみましょう。



学力向上検討委員会の研修会